市長記者会見記録

日時：２０２５年９月１６日（火）１４時００分～１４時２０分
場所：本庁舎２階　記者会見室１・２
議題：市政一般

＜内容＞

【市政一般】

≪川崎市長選挙等について≫

【司会】　ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

　それでは、早速質疑に入りますが、まずは幹事社様から御質問をよろしくお願いします。

【朝日（幹事社）】　どうも、朝日新聞でございます。

　市長選に向けて、自民党さんに続いて、立憲民主党、公明党から、それぞれ支援、支持が出ているんですけれども、改めて、これについての受け止めと、あと、代表質問でもお答えになっていますけれども、御自身の３期目４年間を振り返っていただいて、どんな点が評価されているのかということをちょっと教えていただきたいと思いまして、よろしくお願いいたします。

【市長】　まず、各政党からの支持というか、そういった表明をいただいたことは本当にありがたく思っております。これまでどおり、私、政党からの推薦などは求めてはおりませんけれども、これまでの取組を御評価いただいて、こういった支持表明をしていただけるというのは大変ありがたいと思っております。

　３期のこれまでの評価というのは、自分で評価するのは非常に難しいですけれども、それぞれの期の中で市民の皆さんとお約束してきたことというのを、しっかり総合計画などに位置づけて、着実に取組を進めて、おおむね進捗しているのではないかと思っておりますし、このことについて自己評価するのは本当に難しいので、選挙という形で御審判をいただくことになるのだろうと思っております。

【朝日（幹事社）】　あと、すみません、公明党さんから給食費の無償化について政策提言があったと思うんですけれども、国も無償化を令和８年度からと、今年の２月でしたか、石破政権が表明したんですが、国のほうはなかなか進捗が見通せない状況なんですけれども、給食の無償化、学校給食の無償化については、現時点でいかが考えていらっしゃいますでしょうか。

【市長】　国のほうでどういうスキームになるのかというのが全く確定していないので、非常に、どうなるのかなというのは、他の自治体とともに若干不安があるところではあるなとは思っています。特に、私どもは不交付団体ですので、そういったところに影響がないように制度設計をしていただきたいとは思っております。

【朝日（幹事社）】　一応、現状では、もう令和８年度スタートは難しいなという状況なん

でしょうか。
【市長】　というか、本当にどういうふうにするのというのが全く見えてこないので、特に文科省というよりも、これは政治マターになってしまっているので、どういう設計をしていくのかというのは、各与野党間の中での、しっかりと話合いがないと、なかなか進まないのではないかと思っていて、教育委員会としても、非常に、どうなるんだろうと心配はしています。
【朝日（幹事社)】　ありがとうございます。
【時事（幹事社)】　時事通信社です。
　すいません、もう選挙も近くなりまして、公約もそろそろまとまりそうだとは思うんですけれども、自民党さんの政策提言とかで稼げる都市というようなキーワードとかが入っていたんですけれども、それというのは、今回の公約というか、御自身の公約にも当然入ってくるキーワードなんでしょうか。
【市長】　キーワードは、改めて政策発表のときにさせていただきたいと思うんですが、今期も、やはり稼げる都市というか、しっかりと稼ぐ都市とならなければならないという形で、様々な取組を進めてまいりました。それは確実に継承していかなければならないとは思っておりますので、ということでございます。
【時事（幹事社)】　ありがとうございます。
【司会】　では、幹事社様以外でお願いいたします。ｔｖｋさん、お願いします。
【ｔｖｋ】　ｔｖｋです。よろしくお願いします。
　最初の朝日さんの質問の中で、３期目４年を振り返ってというお話があったと思いますが、改めて、一番力を入れた施策について、どこまで進んだのか、御評価は難しいというお話がありましたけれども、お話しいただけたらと思います。
【市長】　何に力を入れてきたか、どれかというのは本当に難しいですけれども、子育て施策全般にわたってというのは力を入れてきたと思います。待機児童の話ですとか、学校給食の話でありますとか、小児医療費の助成の話でありますとか、もろもろ、それから地域包括ケアシステムというものをどうやって地域に定着させるかということは、これは子育ても含めてでありますけれども、取り組んできたということは、力を入れてきたうちの一つだと思っていますし。本当に基礎自治体の仕事は幅広いので、ある意味、下水道の話だとか上水道の話はあまり、地面の下に潜っているような話、ふだんはあまり気にしないような話というのも、しっかり取り組んできたとは思います。そういった意味で、見えるところにも見えないところにも気を配ってきたという気持ちはあります。
【ｔｖｋ】　ありがとうございます。
≪等々力陸上競技場のネーミングライツについて≫
【司会】　産経さん、お願いします。
【産経】　産経新聞です。よろしくお願いします。
　稼げる都市というところで、ちょっと古い話で恐縮なんですけれども、等々力陸上競技場

のネーミングライツが年間２，０００万円ということで、これはほかのスタジアムと比べてもかなり安いといいますか、味の素と比べると１０分の１ですし、平塚とかと比べても等々力のほうが安いような状況なんですけれども、そのことについての所感といいますか、あるいは金額以外の何かを考慮してこうなっているんだとか、何かあればお願いします。

【市長】　恐らく、このネーミングライツというのは、まさに市場価値なんだと思います。ですから、フロンターレの試合とかブレイブサンダースの試合のときには等々力に人が集まるけれども、それ以外のときにはあまり活用されていないということが、一つ、そういった価値というか、マーケットの値段を下げている要因かもしれません。

そういった意味では、今回、等々力の再編整備で３６５日にぎわっていくことになれば、必然的にそういったマーケット価値というのは上がっていくと思いますので、現状に満足せずやっていければと思っております。

【産経】　ありがとうございます。

≪９月１１日の大雨に係る対応について≫

【司会】　ほかに御質問はございますでしょうか。共同さん、お願いします。

【共同】　すいません、共同通信です。

先週の木曜日に結構激しい雨が市内でもあったかと思うんですけれども、罹災証明書などの申請状況について分かるものがあれば、数字で何かお示しできるものがあればお知らせください。

【市長】　はい。市全域では、中原、高津、宮前、この３区で、罹災証明というのが８８件来ております。後ほど資料も提供させていただきますけれども、床上浸水での罹災証明というのが６０件、床下が２４件ということで、あと車両の罹災証明が４件ということになっております。一番多いのがやはり中原区ということになっておりまして、４９件、ごめんなさい、車両を入れますと５０件になりますから、８８件中５０件が中原区ということになります。よろしいでしょうか。

【共同】　ありがとうございます。今数字としてもお示しいただいたように、多くの市民の方々が被害を受けられたかなと思うんですけれども、その点について、市長としての受け止め、何か一言いただければと思います。

【市長】　今回も至るところで冠水というものが起きました。というのは、今回、時間降雨量というのが中原区で最大だったんですけれども、１３１．５ミリという、過去、記録がある中で最大の雨量ということで、１時間の雨量と、それから累積の総雨量というのがほぼ一致していることからすると、僅か１時間の間に大量の雨が降るというのは、あんまり、近年ちょっと増えてきましたけれども、これほどまでにというのは、私どものまちづくりをやっているところのインフラでは、これだけの雨量をまず受け止めることができないという状況ですので、こういう被害が出てしまうということになります。

ですから、そういう意味では、今後もこういった気候変動による影響というのが大きくなってくるんだろうということを考えると、また、今回は昼間の時間帯であったので職員が対

応することができましたが、これが深夜だとかということになりますと、また違った対応が求められることもありますし、本当に短時間に一気に降るということで、もう行ったときには既に雨が上がっているというような、そういう非常に難しさがあります。局地的なものになりますので、隣の区では全く被害が出ていないという形ですとか、もろもろの対応というのが非常に難しくなってきていると思います。

ですから、ハード整備も、これからも大切だとは思いますが、ハード以外のソフト面での対応というのが、より市民の皆さんにも、それぞれ、御自身の御自宅ですとか勤め先というのはどういう土地であるのかということ、こういう場合にはどういうことが考えられるのかということ、マイタイムラインじゃありませんけれども、そういったものをしっかりと、こちらからも啓発していかなければならないと思いますし、市民の皆さんにも、ぜひ重要性を御理解いただきたく思っております、いただきたいなと思っています。

【共同】　ありがとうございます。

【司会】　ほかに御質問はございますでしょうか。朝日さん、お願いします。

≪川崎臨海部の開発について≫

【朝日（幹事社）】　朝日新聞でございます。

臨海部の再開発は非常に重要な課題でありますけれども、国の水素戦略を受け止めて、市も交通網の整備とかを随分されていると思うんですが、国に対して、ちょっとここはもう少し頑張ってもらいたいんだとか、市としての何か要望みたいなのは、感じていらっしゃるところがあれば教えていただけますでしょうか。

【市長】　様々課題はあるんですが、それについては非常に、国土交通省をはじめ、皆さん大変協力をいただいている状況ですので、今、何か差し迫って、国がこれをしてくれないから困るということではありません。非常に協力的に取り組んでいただいているということで、感謝しているところです。

【朝日（幹事社）】　分かりました。ありがとうございます。

≪川崎市長選挙等について≫

【司会】　神奈川さん、お願いします。

【神奈川】　神奈川新聞ですけれども、改めて、市長選まで、告示まであと１か月を切ったところで、今回、過去２回とは違って、衆院選とのダブルではなく単独となることによって、非常に投票率のほうが、低下がちょっと危惧されていると思うんですけれども、改めて投票率という部分は、市長はどういうふうに、どうなってほしいというか、御自身が出るのであれですけれども、改めて市民の皆さんというか、市民に呼びかけたいこと、並びに投票の重要性みたいなことを市長はどういうふうに思っているかを教えてください。

【市長】　自分たちのまちの一番身近なことを決めていく、方向性を決めていく大切な選挙ですので、有権者の皆さんには、もう、一人残さずと言ったらあれですけれども、全員に参加をしていただきたいと心から願っています。

私が当選させていただいたときの投票率が３２％というような状況でしたので、３割と

いうのは本当にきついなと思います。過去２回、５０％を超えてというのは、衆議院選挙とダブルだったのでということですが、今回は単独なので非常に危惧をしておりますが、報道等でも書かれているとおり、多くの立候補の方がいらっしゃるということは、投票率を上げるという意味では一般的に見て効果的なのではないかと思っているので、そこは期待したいとは思っていますが、ぜひ関心を持っていただきたいなと思っています。

【神奈川】　ありがとうございます。

【司会】　ＮＨＫさん、お願いします。

【ＮＨＫ】　ＮＨＫです。市長選が近いということもありますけれども、これまでに意識的に取り組んでこられたこととの違いという念頭でお伺いしたいんですけれども、川崎市は人口が社会増で増えていますけれども、将来的には、２０３５でしたっけ、ピークを迎えて、その後は減少に向かっていくということですが、次の任期というのは、もし当選された場合というのは、増えていくフェーズに特に力を入れるのか、それとも将来的に減っていくフェーズに力を入れて政策を立案、進めていきたいと思われているか、どちらでしょうか。

【市長】　それはどちらもなんです。人口が増えるということは、単純にいろんなニーズというのが高まるので。ただ、例えば箱物を造ったときに、すぐに人口減少が見えているというところで新しい建物を建てていくのかということになります。

　なので、今、資産マネジメントというのをしっかり進めていっているわけでありますけれども、市民の多様なニーズに応えるために、応えながら、あるものをどうやってうまく活用して、将来的にはダウンサイジングしていくのかというのを念頭に置かなければならないので、いずれ減少するからといって急激に絞るということでもなく、だからといって広げ過ぎてしまってはいけないという、非常に難しいマネジメントだと思っていますので、ここは最も留意しなければならない点だと考えています。

【ＮＨＫ】　ありがとうございます。もう一点だけ、そういった広げるのか絞るのかにももしかしたら関係するかもしれないんですけれども、マンパワー、どの業界も人手不足、これは役所もそうだと思うんですけれども人手不足の中で、今、市内でマンパワーをかけていかなきゃいけないのに足りていないと市長が思われている分野、細かくでもいいんですけれどもというところと、実際にそれをどうしていかなきゃいけないと思われていますでしょうか。

【市長】　あらゆる分野なんです。行政もそうですし、学校の先生もそうですし、民間企業の、もう製造業も建設業も運輸業も、あらゆる、福祉に関わるところも全てです。全てが人手不足ということですので、その中でどうやって増えるニーズに対応していくかというと、１つは、ダイナミックにＤＸをしていくしかないということなんだと思います。

　例えば建設業なんかでも、最終的にトンカチやるのは人ということになりますが、それでも、今、図面のやり取りだとかというのは、かなり建設ＤＸが進んできていますし、そのことによって、なるべく人をかけないようにしようというのは、これは建設業だけじゃなくて全てのところで進んでいます。行政ＤＸもそうです。という形で、要は２人工でやってきて

いた話というのを、もっと減らした中でもちゃんと仕事ができるような仕組みをつくっていかないともたないんだと思っています。

その最たる話が特別市ということになります。今、全国の小さな市町村、もう職員が採れないというのはそうですし、私たち大都市、政令市ですら職員が採れないのに、持続的な仕事ができるのかという、そういう危うい状況になってきているところから考えますと、ＤＸだけじゃなくて制度そのもの、抜本的な制度の見直しということも考えていかないと、この国はもたないという、そういう危機感を持っています。

【ＮＨＫ】　ありがとうございました。

【司会】　ほかに御質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

（以上）

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

（お問合せ）川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当